1. 歌手の asari（あさり）さんのステージイベントは、来場者と一緒に歌謡曲メドレーで盛り上がった /2. 人気のミニ SL「さくら 1 号」の駅には記念撮影用のパネルを設置（写真 1、2：伊達のふるさと桜まつり）/3. 多くの花見客が訪れた（4 月 16 日撮影　やながわ希望の森公園）/4. 雨が降る中、懸命に育樹作業に取り組む（紅屋峠千本桜まつり）/5. 桜が見ごろを迎え、だてなまちに春が訪れた（4 月 16 日撮影　紅屋峠千本桜）

「だてなまちに春が到来」

伊達のふる里桜まつり（4 月 8 日、9 日）、紅屋峠千本桜まつり（4 月 9 日）が開催されました。今年は両イベントとも桜の開花よりも早い時期の開催となりましたが、家族連れなどでにぎわいました。伊達のふる里桜まつりの会場のやながわ希望の森公園では、モンタナロッジ前でステージイベントが行われ、来場者を楽しませました。紅屋峠千本桜まつりは小雨が降るあいにくの空模様。桜の里親たちは雨具に身を包み、桜が大きく育つように願いを込めながら育樹作業を行いました。

市長日誌

「閉校となった母校への感謝の会にて」

新学期が始まり、各小学校で入学式が行われ、私は梁川小学校の式典に出席しました。

その式典で、つい先日、閉校になった小学校の児童が梁川小学校の6年生として、1年生と手をつないで入場案内役を立派に果たしているのを見つけて、大いに安堵したところです。

それに先立つ約2週間前、梁川小学校に統合となる5つの小学校ではそれぞれ閉校式と共に、「お別れの会」または「母校に感謝する会」等が地元の主催で行われました。私もご招待を頂き出席しましたが、時代の流れとは言いながら、140年からの歴史ある母校が無くなることへの地元の皆さんの思いを痛いほど感じさせられました。

参加者の中には、遠くから駆けつけた卒業生もおりました。その中の一人が私のところへ来て「市長は国鉄出身で、東京の大井工場にいたと聞いていますが、本当ですか」と言うのです。驚きながら「ええ、そうですが…」と答えると「私は中学を出るとすぐ上京し、国鉄の大井にある鉄道工場の技能者養成所に入って大井工場に勤めていた」というのです。年齢をお聞きすると私より10歳近く後輩になるようですが、私は国鉄では技術系採用で鉄道車両が専門でしたし、JRになってからその大井の鉄道工場にも勤務しましたので大変懐かしくいろいろとお話しをしたところです。その彼いわく、更に勉強したくて、実は大井工場から中央鉄道学園の大学課程に挑戦、見事合格し、卒業後は事務系職員に転身し、盛岡鉄道管理局に配属となって以来、国鉄からJRと永年勤めて盛岡駅長を最後に退職、今は子会社の常務をやっている、とのこと。

この中山間地から志を立て弱冠15歳にして一人上京、刻苦勉励、努力の末、重要駅である県庁所在地の駅長に就いたことは、鉄道人としての最高の目標を達成したといっても過言ではなく、彼の歩んだ鉄道人生の頑張りに敬意を表するとともに、郷土の誇りでもあると思ったところです。

盛岡で長く勤め今も住む彼にとっては、彼の地が終の棲家となるのでしょうが、「故郷忘れ難し」、今母校が無くなるというこの時に、馳せ参ぜずにはいられなかったのでしょう。これからも頑張って下さい。遠くからありがとう。故郷は永遠です。

編集・発行　伊達市総務部秘書広報課　平成29年4月27日発行　NO.135
〒960-0692 福島県伊達市保原町字舟橋180番地　TEL024-575-1113　FAX024-575-2570　印刷・製本　株式会社CIA